回覧

「石神台ガーディアン」2019年11月報告

2019（令和元年）年11月22日
石神台ガーディアン代表　中野靖久
編集者　小野修司

1） 団員数

昼間合同巡回実施者：	２８名
夜間合同巡回実施者：	２３名
青パト巡回実施者：（同乗者を含む）	３名
以上のどれかの巡回をしている人数：	５１名

個人的に巡回している方70名を加えると、トータル121名です。
やはり夜巡団員が少なくなっています。

2） 10月16日～11月15日の巡回実施状況

✓ **合同歩行パトロール （自分の住む丁目を中心に実施）**

	昼		夜	
	実施日数	延べ参加者	実施日数	延べ参加者
１丁目	３日	２６名	９日	３６名
２丁目	７日	４０名		４１名
３丁目	５日	１４名		２６名
全体	１５日	８０名		１０３名

今月の夜巡回は雨で1日出来なかっただけで9日間出来ました。巡回にはちょうど良い季節です。周り初めは少し寒いけれどすぐに暖かくなります。

青色回転灯装着車によるパトロール　（石神台内を現在は2台の登録車で随時実施）
１１月度：実施車両数：２台　実施回数：１２回
延べ走行時間：９時間４５分　　走行距離：８２．５km

3） 不審車両と区別するステッカーの表示について

	調査した夜間９日間			取りあえず９０％を目標にしていますので住民の皆様に更にご協力をお願いいたします。
	路上駐車台数	ｽﾃｯｶｰ有数	ｽﾃｯｶｰ有比率	
１丁目	３５台	３３台	９４．３％	
２丁目	９台	６台	６６．７％	
３丁目	９台	６台	６６．７％	
全体	５３台	４５台	８４．９％	

2丁目、3丁目とも駐車台数は少なかったが66．7%と悪かったです。
住宅地内で一時的に駐車する場合、不審車両識別ステッカーを入れるのは石神台のルールになっていますので是非、守って頂きたいと思います。

4） ガーディアンの気持ち

何年前からか、健康寿命とか人生100年ということがよく言われているが、それに関する我々高齢者にとって気になる話題を紹介したいと思います。

昨年の春、「世界一孤独な日本のオジサン」という本が出版されました。著者は「オジサンの孤独」研究家で、企業やビジネスプロの「コミュニケーション力」強化を支援するスペシャリストと称される岡本純子さんという女性です。

著者の調査によると 「世界一孤独な国民」、それは日本人で、とりわけ、この「孤独の」犠牲者になり易いのが、中高年の男性だそうです。

孤独の定義は難しいが、典型的なのは「自分の家族や身内以外の人とほとんど会話しない人」のことで、女性に比べると男性、特にオジサンたちは「コミュニケーションに不器用」なので孤独に陥りやすく、最も事態が深刻なのは「孤独は万病のもと」だそうです。これは医学調査でも立証されているそうです。

それでは、孤独の処方箋は、となるとそう簡単なものではないが、効果的なのは、コミュニティ（地域社会）に多く係わることのようです。その点で言えば、石神台には各種行事や同好の集まり、そして何より、15年以上続いているガーディアン活動があります。 お喋りしながら、四季折々の庭木や花々を眺めながらのパトロールに参加していれば、一人住まいであってもそれだけで孤独解消に大いに役立つのではないでしょうか。

なお、一方では、下重暁子著「極上の孤独」、曽野綾子著「孤独の特権」など孤独をプラス思考で述べている本も多く読まれているようですが、いずれも才能溢れた女性の見方であって、石神台のオジサン、おばさんにとっては、やはりガーディアンがお勧めです。

（「オジサンガーディアンのつぶやきさん」より）

5） 大磯警察より

＊空き家に対する「空き巣」被害が多発しています。特に二宮町で多いのですが…

これから年末にかけて、外出する機会が多くなります。出掛ける時は必ず鍵をかけて出掛けて下さい。

6）編集部より

＊12月22日（日）は恒例の餅つきがあります。この餅つきは元々はガーディアンの行事でしたが13，14年前に時の自治会長の高橋さんが「自治会行事にしましょう」と言われて、自治会の行事になりましたがガーディアンがずっとお手伝いをしてきました。今年も文体から援助の要請がありましたから、ガーディアンの皆さんは是非参加して手伝いましょう！

挨拶で犯罪なくそう石神台

石神台ホームページ

https://ishigamidai.com　**海の見える街　大磯町石神台**　検索

大磯警察　生沢駐在所だより（ふれあいパトロールたかとり）は：

http://www.police.pref.kanagawa.jp/ps/69ps/69pic/69004_12.pdf

大磯警察　大磯駅前交番だより（おおいそ）は：

http://www.police.pref.kanagawa.jp/ps/69ps/69pic/69004_06.pdf

7）番外・付録・おまけ…　『災害が起こった時に…あなたが支援できること。』

今回からシリーズで災害と高齢者について考えて行きたいと思います。

近年、日本でも世界でも様々な想定外な災害が起こっています。地震だけではありません。
台風や、風水害、火山噴火で大規模の被害が出ています。みな想定外な被害が起きています。

《災害が高齢者に及ぼす影響》

災害が人に及ぼす影響は様々ですが、特に高齢者の場合は身体が不自由であったり、一人暮らしで家族の援助が受けられないなどがあり、より影響を受けやすいと言われています。
災害によるショックや避難所生活による環境の変化等が要因となって、高齢者の心身に影響を及ぼし、体調を崩したり寂しさや不安から悲哀や失望感が強くなる等の症状となって現れ、次第に不都合が出てきます。

そのため高齢者が、少しでも早く普通の生活に近づけるよう、避難所を生活の場として考え個々に配慮した環境を整える必要があります。地域の顔見知りの方がいつもそばにいてくれればそれだけで安心につながりますし、病気や障害のある人には、介護がスムーズに行えるような配慮があれば心強いでしょう。

“こころへの影響”

災害を経験すると誰でも動揺しますが、特に高齢者は突然の災害でこれまでに築いた全てのもの即ち、家・家族・財産などを失うショックに直面し、特に心が傷ついてしまう事があります。加えて環境の変化も大きな影響を及ぼします。

また高齢者の中には一人暮らしの人も多く、普段から交流が少ないため情報が不足して孤立しがちです。情報不足からくる不安は高齢者に大きなストレスを与えます。
高齢者を一人にすることなく、地域と絶え間ない接触の機会を持てるように工夫することが大切です。

（日本赤十字社製 「災害時高齢者生活支援講習ハンドブック」より）